

杜陵

だより

第5-2号

発行: 岩手県立杜陵学園
(児童自立支援施設)
〒020-0124
岩手県盛岡市
厨川二丁目3番1号
電話: 019-641-3365

一年を振り返って

岩手県立杜陵学園長

蛭田 嘉男

今年度、新型コロナウイルス感染症が五類に移行し、各種スポーツや文化活動は従来に近い形で実施された。野球やバトミントンは悔しい結果となったものの、普段の生活や練習とは異なる本番での真剣な表情や動きに、感心させられた。また、一つのことを全員で最後までやり遂げた充実感、その経験は学園に入園してこそ味わえる貴重なものである。

ただ、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行に終息の気配が感じられず、感染予防のため子ども同士の交流は限られたものになっている。全国的に児童自立支援施設は入所児童数の減少傾向に歯止めがからず、また、個別対応が必要な児童も大幅に増えている。各種活動以外の普段の生活場面でも集団支援に日々苦慮している。単に少

子化だけでなく、児童自立支援施設の在り方そのもの見直しが求められている。

今後の児童自立支援施設の方向性については、全国児童自立支援施設協議会の内部でも検討が進められてきた。当面、各施設が進むべき方向として「児童自立支援施設の高機能化等に関する検討委員会 報告書」が令和6年3月に取りまとめられた。医療との連携や特別支援教育の充実など個別的な支援を強化し、幅広い年齢層（特に中卒以降）の支援を継続的に実施していく必要がある。

杜陵学園でも今年度、問題行動への対応や生活の各種ルール的大幅な見直しを行っている。職員同士の議論だけでなく、近隣の各施設のルールや対応法も参考にし、時代の流れに応じた、児童の権利を十分に意識したもの

打席に向かう児童。あわやランニングホームランという素晴らしい打撃でした。

にしていきたい。

児童自立支援施設は児童福祉施設の中でも長い伝統があり、独自の指導を展開してきた。ただ、入所児童の多様化等施設を取り巻く状況の変化が大きい時代では、従来の考え方や方法にとらわれない柔軟さもまた重要である。「過渡期」という言葉が何度かよぎったこの一年であった。

3 学期修了式の様子

事業報告

分校・分教室事業報告

平成二十二年の学校教育導入以来、様々な課題と直面し、改善されながら、北杜分校は営まれてきました。今年度は、発達支援教育的な支援による個別対応、養護教諭不在による組織上の問題、進学、学校復帰に係る対応等分校としての課題は多かったです。

一方で子どもたちは、盛岡市動物公園での遠足、学習発表会でのピアノ演奏やさんさ太鼓の演奏、修学旅行等の行事への参加など、日頃の学習の成果を存分に発揮することができました。不登校や入院のため十分な学習ができなかった子どもたち一人一人がスポットを浴び、必死に取り組む姿を見て感動しました。

学校の機能は、家庭やその他の機関では代用できないと思います。学習の習慣や環境を整えることや集団の中での関わりを通して子どもたちは学び、成長していきます。分校に勤務して改めて感じたことがあります。それは、特別な事情を抱えた子どもたちも、ごく普通の子どもたちであるということです。

たとえ施設内にある「分校」という形態であっても学校にしかできない機能を、子どもたちのために果たしていきたいです。(熊上)

修学旅行の様子

生活指導班事業報告

児童自立支援施設では「粹のある生活」という言葉がよく使われます。これはゆつたりとした自然環境の中で空間的、時間的な枠組みが作られていることを指します。児童は外部刺激を一定程度遮断した環境の中で規則正しい生活を過ごしながら、子どもたちが将来自身の課題改善のために日々努力しています。職員は児童と常に一緒に活動しながら、

健全な社会生活を送ることができるよう、様々な生活場面の中で集団的かつ個別的な指導と援助を行っています。

その他、自立支援の充実のために生活指導班が取り組むべきことの一つに、「みんなが安心安全に暮らすことができるよう暴力を無くすこと」があります。そのために、当園では地域や児童相談所の協力を得て安全委員会を設置しています。毎月一回、担当支援員が児童から個別に暴力の有無に関する聞き取りを行い、その内容を毎月一回開催する安全委員会にて報告しています。安全で安心な生活の実現を果たすため、安全委員会を活用しながら暴力等の未然防止を図っていきいたいと考えています。(佐々木聖人)

3学期修了式。修了式後では各児童が学期の振り返り作文を発表しました。どの児童も真剣に発表しており、成長が感じられました。

学習指導班事業報告

今年度の学習発表会は、十月十四日に開催しました。発表会の本番に向けて、入所児童九名が一丸となり、練習と準備に一生懸命取り組みました。

展示では各教室に、各教科で取り組んだ作品や教科ノート、中三生は修学旅行の写真の展示をしました。また作業時に畑で育てた野菜を来賓の方々に持ち帰っていただきました。日々の授業や日課で地道に取り組んだ成果を披露することができました。

学習発表会の練習では、さんさ太鼓の演奏が揃わなかったり、ピアノ演奏につまずいたり

日々困難の連続で投げ出しそうになる児童も居ました。しかし、担当支援員の温かい声掛けや見守り、学校の先生方の熱心な教え等により学習発表会では全児童がそれぞれの全力を出し切り成功を収めることができました。

学習発表会後は、児童の表情も明るくやり遂げた達成感と自己肯定感にあふれていました。保護者の方々や前籍校の先生方、児童相談所の皆様には児童の成長の兆しを見ていただくことができましたと思います

この自己肯定感や達成感、来賓の皆様の激励を糧にして、これからの生活ではそれぞれの課題と向き合うように学園一丸となって支援を続けていきたいと思っています。(野々口)

スポーツ指導班事業報告

令和五年度のスポーツ活動は、野球、バドミントン、マラソンに取り組んできました。野球は福島県、バドミントンは秋田県で開催された大会に参加しました。どちらも長時間のバス移動があり、疲労も溜まる中での試合でしたが、一生懸命取り組みんでいたと思います。マラソンは県内の矢巾町で、希望児童のみ参加しました。男女合わせて4人の児童が参加し、それぞれの距離を完走することができました。少ない練習時間でしたが、練習の成果を発揮する良い経験になったと思います。

どの活動も、子どもたちは日頃から練習していましたが、本番で上手くできるのか不安だったと思います。また、環境も変わり、大勢に見られるという緊張があったと思います。それでも、弱音を吐かずに、最後まで取り組むことが

できた子どもたちは、大きく成長したと思います。来年度も、スポーツを通して、子どもたちの成長を見守っていきます。(岩脇)

ロードレース大会。参加児童全員が無事完走することができました。

園内レクリエーション大会にて、二人三脚の様子。児童・職員で様々な活動を行い楽しい時間を過ごすことができました。

作業指導事業報告

広い敷地かつ自然豊かな杜陵学園で、農業、草刈り等を行うことは大変骨が折れる作業です。一年を振り返って改めてそのように感じたところですが、今年度は実施方法を見直し、入所児童の手本となるべく職員一丸となつて、作業活動を実施することができました。一方で、作業主旨である「入所児童に対し、協働して仕事を達成する喜びを体験できるような作業指導を行い、それにより勤労の意欲の向上や心身の鍛錬を図るとともに、社会性、協調性、効率性等の社会生活を送る上で必要なスキルの向上を図る」ことについて、児童に「還元」することができたか今すぐの評価は難しく、本来の意味での答えは、五年、十年後、若しくは、さらにその先にわかるものなのだと思います。

最後に、今年の三月は例年と比べ退園生が多く、入所児童の半数が杜陵学園を巣立っていきます。皆様には学園での活動を通じて学んだことを新しい生活に生かせるよう頑張つて欲しいです。(只野)

作業の様子。暑い中でも一生懸命に学園内の環境整備を行いました。

調理実習の様子。今年度最後の調理実習はプリンを作りました。みんな丁寧に作業をして、おいしく作り上げることができました。

編集後記

今年度の杜陵だよりは、今回で最終号となります。杜陵だよりの編集作業は、いろいろな行事や出来事を振り返る貴重な機会となりました。子どもたちに信頼される大人でありたいとがきながら、子どもたちの頑張りや成長に背中を押してもらった一年でした。(休石)

主要行事(4月～10月)

- 4月 始業式・決意発表会、グラウンド開き、お花見会
- 5月 ゴールデンウィーク、遠足
- 7月 全日本少年野球東北・北海道地区大会、反省作文発表・終業式
- 8月：2学期始業式、全日本少年野球大会
- 9月：北奥羽児童自立支援施設スポーツ交歓会
- 10月：学習発表会

児童入所状況

(単位:名)

月	10	11	12	1	2	3	延計
月初人数	9	10	10	10	10	12	
月中入所	1	0	0	0	2	0	3
月中退所	0	0	0	0	0	6	6(7)

皆様からの御意見・御感想は、インターネットでも受け付けております。

<http://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/011283.html>